

天声人語

急いで頭に詰め込むのは「にわか勉強」。いきなり降ってきてすぐやむのは「にわか雨」。様々なにわかがあるが、海外に紹介された例は初めてかもしれない。「にわかファン」である日本で開催中のラグビーワールドカップをめぐつて、英紙に「niwaka fans」と載り「新参者、時流に乗る人」との説明が付いた。当方も試合ごとに一つ二つとルールを学んでいる口である。興味深いのは試合運びに限らない▼サッカーの兄弟のような競技ながら、文化の違いが伝わってくる。紳士のスポーツの矜持もあるのだろう、観客のブーイングが少ない。どちらのチームを応援するかで客席を分けないのは、けんかの心配がないからか▼外国人にも代表の門戸が開かれており、たとえば3年以上続けて住めば資格が得られる。最初は「日本代表っぽくない」とも感じたが、これもなかなかいい、いやこれは相当いいと思えてきた。国籍があるがなからうが、住む人、関わりのある人全てで作るのが、この社会なのだから▼準々決勝の南アフリカ戦に出たピーター・ラブスカフニ選手は、母国を相手に壮絶な戦いをした。日本のチームで活躍し、代表の要でもある。4年後はどんな顔ぶれが見られるだろう▼本場の英国ではサッカー好きがラグビー好きを「お高くとまつた連中」と難じることもあるらしい。そう考えるとファンになる垣根は日本では随分低いかも。冷めやすい点を割り引いても、多くのスポーツ文化を吸収できる強みがある。

2019・10・22